ニュース

【共催企画】福島県立博物館 特集展「震災遺産を考える―ガレキから我歴へ」2月11日ー3月21日

[Topics] [イベント] 2016年01月29日

【 展示企画概要】
期　間 平成28年2月11日（木・祝）～3月21日（月・祝）
会　場 福島県立博物館 企画展示室　開館時間 9時30分～17時（入場は16時30分まで）
観覧料 無　料
休館日 毎週月曜日（※ただし、春分の日の3月21日（月・祝）は開館します。）

主　催 ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会（委員長　赤坂憲雄）
構成団体：
相馬中村層群研究会、南相馬市博物館、双葉町歴史民俗資料館、富岡町歴史民俗資料館、
（公財）ふくしま海洋科学館、いわき市石炭・化石館、いわき自然史研究会、福島県立博物館
共　催 東北大学学術資源研究公開センター
東北大学災害科学国際研究所
東北大学グローバル安全学トップリーダー育成プログラム
助　成
ふくしま震災遺産保全プロジェクトの各事業は、「平成27年度 文化庁 地域の核となる美術館・博物館支援事業」の採択を受けて実施しています。

【シンポジウム】
「震災遺構を考える―震災を伝えるために―」
日　時 3月19日（土）　13時～16時

詳細：福島県立博物館HPへ

特集展「震災遺産を考える―ガレキから我歴へ」

横断幕「富岡は負けん！」（富岡町）

津波で折れた標識（南相馬市）

避難所になった小学校体育館（浪江町）

2011年4月11日の地震で出現した活断層（いわき市）

展示室入口：富岡駅改札と駅名標示板（富岡町）

展示室内：３Dデジタル震災遺構アーカイブ体験

ふくしま震災遺産保全プロジェクト　アウトリーチ事業　震災遺産を考えるⅡ
会津セッション「震災から５年を迎えて」　について

　ふくしま震災遺産保全プロジェクトでは、東日本大震災を歴史と位置づけること、歴史として共有し、未来に伝えることを目指しています。そのためにはまず「福島県に何が起きたのか？」「福島県に何が生じたのか？」を明らかにすることを出発点に、震災で生じた出来事の背景や要因を探っていく必要があると考えています。震災で福島県に起きたこと、すなわち「ふくしまの経験」を示す歴史的資料として、私たちは震災が産み出したモノやバショに着目し、これを「震災遺産」と呼んでいます。

　福島県における本震災には、地震・津波・原子力発電所事故が与えたダメージと、これに対応した救助・避難・支援・除染などの様々な局面があり、この局面ごとにあるいは局面が重なって多量の瓦礫、広域に分布する仮設住宅団地、除染物質の広大な集積など非日常の光景が震災から５年の今も産み出されています。

　本プロジェクトでは、震災遺産が震災の経験だけでなく震災前まであった人々の生活や日常を伝える手段になると考え、昨年度からフィールド調査や資料を収集・保全する取り組みを始めました。アウトリーチ事業「震災遺産を考えるⅡ」会津セッションでは、プロジェクトのこれまでの活動を皆様に紹介するとともに、震災のカタチを多様な震災遺産と多様な保全のあり方から考える機会として、展示会・対談・シンポジウムを開催します。

○**展示テーマと内容**：

　この展示では、平成26年度から開始した震災遺産の調査・収集活動とその成果を約100件の収集資料や写真パネルで紹介し、震災の多様性と震災から５年のふくしまを振り返ります。

１　あの日・あの時から　―揺れる大地・迫る海・崩壊した「安全」
2011年3月11日から今日までに発生した出来事を、象徴的な震災遺産から振り返る。

２　「避難」の多様性
一時避難所、「一日だけの避難所」など福島県特有の避難を避難所資料から考える。

３　断絶する「日常」　―学校・生活・仕事―
震災で断絶する日常・回復しない日常を被災地に残されたままとなった器物から紹介する。

４　思いがけない「未来」
震災によって意味が変わったもの、新たに生み出されたものから福島県の今の姿を考える。

主な展示資料（期間内に展示替えあり）：
・震災の時刻で止まった時計　　・非常用飲料水
・津波で曲がった橋の欄干　　・被災地名を示す道路標識
・活断層剥ぎ取り標本　　・避難誘導したパトカーの部品

・火事で融けた街灯　　・安定ヨウ素剤
・ＪＲ富岡駅改札　　・避難所で使われたロウソク
・垂れ幕「富岡は負けん！」　　・配達されなかった新聞包み
・震災当日の新聞が入ったままの自動販売機

開催概要

期　間	平成28年2月11日（木・祝）～3月21日（月・祝）
会　場	福島県立博物館 企画展示室
開館時間	9時30分～17時（入場は16時30分まで）
観覧料	無　料
休館日	毎週月曜日（※ただし、春分の日の3月21日（月・祝）は開館します。）
主　催	ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会（委員長　赤坂憲雄） 構成団体： 相馬中村層群研究会、南相馬市博物館、双葉町歴史民俗資料館、富岡町歴史民俗資料館、 （公財）ふくしま海洋科学館、いわき市石炭・化石館、いわき自然史研究会、福島県立博物館
共　催	東北大学学術資源研究公開センター 東北大学災害科学国際研究所 東北大学グローバル安全学トップリーダー育成プログラム
助　成	ふくしま震災遺産保全プロジェクトの各事業は、**「平成27年度 文化庁 地域の核となる美術館・博物館支援事業」**の採択を受けて実施しています。

関連行事

（1）３Dデジタル震災遺構アーカイブ体験　　※福島県内では初公開となります

会　場	福島県立博物館　企画展示室内　特設ブース
日　時	特集展開催日は全日、　10時30分～12時、13時30分～15時 ・体験可能人数は午前、午後各20名。午前の部は10時から、午後の部は13時から整理券を配布します。 ・お一人当たりの体験時間は約５分です。 ・機器調整のため体験できない場合もあります。
内　容	３Dポイントクラウドデータとして保存した福島県所在の「震災遺構」を、最新技術ＭＲ（※）による３次元バーチャル映像で体験します。 ※ＭＲ（エムアール）とは：　複合現実（Mixed Reality）。仮想現実と現実世界をリアルタイムで融合させる技術。
コンテンツ	・浪江町請戸地区（請戸小学校・請戸漁協ほか） ・浪江町内避難所跡 ・ＪＲ富岡駅 ・富岡町災害対策本部跡　など
協　力	キヤノンマーケティングジャパン株式会社

（2）特集展展示解説会（計15回）

講　師	当館学芸員
日　時	・2月11日（木・祝）　10時30分～、14時～ ・特集展開催中の毎週日曜日：2月14日(日)、21日(日)、28日(日)、3月6日(日)、13日(日)、20日(日) 各回とも　10時30分～、14時～ ・3月21日（月・祝）　10時30分～
場　所	当館企画展示室

（3）トークセッション

「震災画像・映像アーカイブの可能性」

講　師	赤坂憲雄（当館館長）　×　金澤文利（当館主任学芸員）
日　時	2月18日（木）　13時30分～15時
場　所	当館講堂（※定員200名。申込み不要、先着順）
参加費	無　料
内　容	現場から引き剥がされた画像や映像を「場面（シーン）」として捉えることへの違和感。時間の流れとともに被災現場が消失し、風土が記憶・過去を失うとき、画像・映像が、その土地の声なき声・目に映らないもの・現実の不安に対する距離感をどう伝えていくのか。画像・映像に何を語らせるべきなのか。

（4）シンポジウム

「震災遺構を考える―震災を伝えるために―」

日　時	3月19日（土）　13時～16時
場　所	当館講堂（※定員200名。申込み不要、先着順）
参加費	無　料
内　容	福島県における、震災遺構の現地保存の議論は、原子力発電所の事故の影響もあり宮城県や岩手県のようには進んでいない。ふくしま震災遺産保全プロジェクトと東北大学は平成26年度から３Dポイントクラウドデータによる県内の震災遺構の保存事業に協力して取り組んでいる。 本シンポジウムでは、被災３県の震災遺構の保存についての現状を知り、震災遺構や震災遺産の価値を考え、今後どのように活用して震災を伝えていくことができるのか検討する。
次　第	**1　開会あいさつ**　　赤坂　憲雄（当館館長） **2　講演** **・報告１「福島県の震災遺構」：**　高橋　満（当館主任学芸員） **・報告２「震災遺構３DデータとＭＲ技術の可能性」：** 鹿納　晴尚　氏（東北大学学術資源研究公開センター　技術支援員） **・報告３「岩手・宮城の震災遺構」：** 柴山　明寛　氏（東北大学災害科学国際研究所　准教授） **・報告４「東日本大震災における復興祈念公園について」：** 脇坂　隆一　氏（国土交通省東北地方整備局東北国営公園事務所　所長） **3　パネルディスカッション** 司会：赤坂　憲雄 パネリスト：上記発表者４氏および、三瓶　秀文　氏（富岡町教育委員会　主任学芸員） **4　閉会あいさつ**　　赤坂　憲雄